

## 藤沢市立駒寄小学校

研究テーマ：児童が主体的に取り組む魅力ある授業づくり

### 1、実践の目的

駒寄小学校では日々の授業を通して、本校の学校教育目標である「自ら考え、判断し、行動できる子」を育成するために「児童が主体的に取り組む魅力ある授業づくり」をテーマに研究を進めている。魅力ある授業の実現には、「自分の思いを伝える」「お互いの考えを認め合う」ことが基本となると考えた。そこで、特別支援学級や低学年では「あいさつ」「あいづち・認め合い」「聞き方・話し方」の話型等を具体的に示し、日常的に活用して効果をあげている。中学年以上は自己表現の場を広げるために考えを表現するツールの一つとして学習用端末の活用を工夫してきた。

また、本校の全国学力・学習状況調査の結果からは、特に国語科の「書くこと」について課題が見られた。そこで、自信を持って自己表現ができる学習環境を整え、授業後に自分の考えや感想を短文にまとめさせる等、児童が抵抗なくできる取り組みを継続することにも力を入れている。

同テーマでの研究3年目となる令和4年度は、学区内の滝の沢中学校・滝の沢小学校・石川小学校と連携して「主体的な学び合いのために～意見を持つ、伝える、認め合う授業づくりを目指して～」を大テーマに研究を深め、児童・生徒の「学びに向かう力」を高める授業づくりを研究した。

### 2、実践の内容

#### (1) 研究の概要

昨年度から授業実践を核とした研究を推

進している。まず各学年で指導案を作成、その後、低・中・高学年部会での指導案検討を経て、校内研究の時間に模擬授業、協議会を行い、再度の指導案検討を経て、公開授業を実施、最後に授業後の研究協議の時間を設けた。授業に至るまで、多くの視点をもって考え抜くことができたことに加え、R4年度から、研究部会を各学年から低中高学年グループに拡大したことで、学年間のつながり、学習内容の系統性に着目した授業研究を推進することができた。今年度は、「自分の思いを伝える」「お互いの考えを認め合う」ための力の向上に努めた。研究教科として、駒寄学級は「体育」、1・2年グループは「国語」、3・4年グループ、5・6年グループは「特別の教科 道徳」を選択した。

また、明星小学校校長の細水保宏先生を講師として招聘し、「算数のよさや美しさ、考える楽しさを味わう算数授業づくりの在り方を探る」という研究主題で5学年「式と計算」の公開授業、ご講演をいただいた。本校の研究テーマである「魅力ある授業づくり」に具体的なイメージを持たせると共に大きな刺激をいただいた。魅力ある授業づくりのポイントとして「知的好奇心と学びを楽しむ心を大切にする」「子どもと一緒に学びの空気を創る」「結果だけでなく過程を捉えて子どもの変容を楽しむ」等を挙げて、それぞれの効果をご教授いただいた。「児童が主体的に取り組む魅力ある授業」を目指し、校内研究をさらに活性化させる研修となった。

#### (2) 「魅力的な授業」づくり

・低学年では「話し方・聞き方あいうえお」「相談タイムのコツ」等の具体を示し、短文で自分の考えをまとめさせることで、少人数での話し合いに生かす活動を継続した。児童が、自分の考えを伝え、友達の発言を受けて話を繋ぐことができるよう手立てを工夫し、児童の表現力と意欲を高めた。

・中学年では、児童一人一人の考えを黒板上のスケールに示して視覚化し、お互いの考えの違いに気づかせ、よりよい解決法を考えさせた。一つのテーマに対して複数時間指導を意図したパッケージ型ユニットを組み、一つのテーマに様々な角度からじっくりと取り組ませることができた。

・高学年では、端末を使用したクラスアンケートで現状把握をしたり、全員の考えが出そろったところで端末上で共有させたりといった工夫で、児童一人一人の多様な考えを引き出し、ICTを活用して学びを深めさせることができた。

・授業参観中に「校内研究テーマとの関わり」「児童の様子、つぶやき等」「教師の関わり」を見取って参観者が付箋に記録することで視点を明確にした研究協議会を目指した。



### 3、実践の成果

校内で 12 回の公開授業の機会を持つことができた。それ以外にも学年内で授業を参観し合う等、実践中心の研究に集中して取り組んだ。授業公開当日に至るまでの試行錯誤と授業後の協議会によって、実践の

成果をより大きなものにすることができた。校内の職員だけでなく、講師の細水先生、指導主事の方からいただいたご助言により視点が定まり、研究を深めることもできた。また、中学校教員という立場で授業を参観いただき、授業後の研究協議会でいただいたご意見は大変貴重で、中学までを視野に入れる新たな視点となった。小中連携の意義と必要性を改めて実感することができた。授業後の研究協議では、事前に立てた協議の柱を意識して進めることで焦点を絞った話し合いをもつことができた。次年度も継続して、様々な手法で研究協議の充実を図っていきたい。

### 4、今後の展開

今年度の取り組みを通して、「自分の思いを伝える」「お互いの考えを認め合う」という基本姿勢をある程度定着させることができたと考える。今後も児童に「考えたい」「友だちの考えを聞きたい」と思わせる授業研究に力を入れ、児童の学びに向かう力の資質・能力のさらなる向上を目指していく。

次年度は国語、算数といった主要教科から 1 教科を選び、全学年の系統性を意識しながら、児童が主体的に取り組みたくなる魅力的な授業を研究していく予定である。今年度、小中でそれぞれの授業公開や講演会の計画を共有でき、連携して研究を進めることができたことは大変有意義であった。今後もさらに小中の連携を深め、9 年間の学びの向上を目指していきたい。

